

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	生物
科目基礎情報						
科目番号	0033		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：「生物基礎」吉里勝利ら編（第一学習社），「フォトサイエンス生物図録」鈴木孝仁監修（数研出版）					
担当教員	塚田 玲子					
到達目標						
各週の到達目標にあげた生命現象を理解する上での基本的な事柄を理解・習得し，これにより最新の生命科学や生物工学の内容を学ぶための基礎力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	生物の多様性と共通性及び細胞の構造や働きに関する応用的な問題を解くことができる。		生物の多様性と共通性及び細胞の構造や働きに関する基本的な問題を解くことができる。		生物の多様性と共通性及び細胞の構造や働きに関する問題を解くことができない。	
評価項目 2	遺伝現象と遺伝子の働きに関する応用的な問題を解くことができる。		遺伝現象と遺伝子の働きに関する基本的な問題を解くことができる。		遺伝現象と遺伝子の働きに関する問題を解くことができない。	
評価項目 3	生物の外界からの刺激に対する応答及び生物の恒常性に関する応用的な問題を解くことができる。		生物の外界からの刺激に対する応答及び生物の恒常性に関する基本的な問題を解くことができる。		生物の外界からの刺激に対する応答及び生物の恒常性に関する問題を解くことができない。	
評価項目 4	バイオームの多様性と分布及び生態系とその保存に関する応用的な問題を解くことができる。		バイオームの多様性と分布及び生態系とその保存に関する基本的な問題を解くことができる。		バイオームの多様性と分布及び生態系とその保存に関する問題を解くことができない。	
評価項目 5	地学に関する応用的な問題を解くことができる。		地学に関する基本的な問題を解くことができる。		地学に関する問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	生物学は生命について学ぶ学問であり，物理学や化学と密接な関係を持つ自然科学の1領域である。そこから得られた知見は，近年の生物工学（バイオテクノロジー）などの進展により以前にも増して我々の日常生活に深く関わってきている。本講義では最近の生命科学の話題を加えながら生物学の基礎的事項を学ぶ。それによって，最新の生命科学や生物工学の内容を理解するための学力を養う。また，この学習を通して自然科学的な思考能力を鍛える。内容は高等学校の生物学程度とする。また後期2週は，MCC対応地学教材によるアースサイエンスの講義を行う。					
授業の進め方・方法	・内容はすべて，学習・教育到達目標（B）＜基礎＞に相当する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点	＜到達目標の評価方法と基準＞ 2回の中間試験，2回の定期試験で目標の達成度を評価する。合計点の60%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。中間試験を50%，定期試験を50%として評価する。 ＜学業成績の評価方法および評価基準＞ 前期中間・前期期末・後期中間・学年末試験については，すべて再試験を行わない。但し，2回の中間試験及び前期期末試験の評価で，それぞれ60 パーセントに達していないものには課題を提出させ，学習への取り組み姿勢も考慮して評価を行う。 ＜単位修得要件＞ 学業成績で 6 0 点以上を取得すること。 ＜あらかじめ要求される基礎知識の範囲＞ 中学校の理科の授業内容を十分に理解しておくこと。 ＜レポート等＞ 必要に応じてレポートや課題を課す。 ＜注意事項＞ 授業中の板書は，必要に応じてノートに取るように心がけること。授業内容は前時に連続することが多いので，授業後はその内容について十分な復習を行い次時に備えること。本教科は分子生物学概論，生命工学や分子生命科学の基礎となる教科である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生物の多様性と共通性		1. 生物の多様性とその起源，生物の共通性を説明できる。	
		2週	生物の特性・細胞の多様性		2. すべての生物に共通する特性，細胞の多様性を説明できる。	
		3週	原核細胞と真核細胞		3. 原核細胞と真核細胞の共通性と違いを説明できる。	
		4週	真核細胞の構造		4. 真核細胞の構造と，その内部に存在する様々な細胞小器官について説明できる。	
		5週	代謝とATP		5. 代謝と，それに伴って利用されるATPの構造と働きについて説明できる。	
		6週	光合成の反応過程		6. 光合成の反応過程を説明できる。	
		7週	呼吸の反応過程・共生説		7. 呼吸の反応過程，及び共生説について説明できる。	
		8週	前期中間試験		8. これまでに学習した内容を説明することができる。	
	2ndQ	9週	遺伝子の本体であるDNAとその構造		9. 遺伝子の特徴，及びその本体であるDNAの二重らせん構造を説明できる。	
		10週	遺伝子研究の歴史・細胞周期		10. 遺伝子研究の歴史，及び細胞周期について説明できる。	
		11週	遺伝情報の複製と分配		11. 遺伝情報の複製と分配のしくみを説明できる。	
		12週	タンパク質の構造と酵素		12. タンパク質の構造と，タンパク質を主成分とする酵素の働きについて説明できる。	
		13週	タンパク質の合成		13. 細胞内で行われるタンパク質合成の転写・翻訳の過程を説明できる。	
		14週	遺伝子とゲノム		14. 遺伝子とゲノムについて説明できる。	

		15週	細胞内での遺伝子の発現	15. 遺伝子の発現調節により生物がさまざまな形質を現していることを説明できる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	地球の概観，大気と海洋（MCC対応地学教材）	16. 地球の概観及び大気と海洋について理解している。
		2週	地球の内部と活動（MCC対応地学教材）	17. 地球の内部と活動について理解している。
		3週	恒常性と体液	18. 恒常性と脊椎動物の体液について説明できる。
		4週	体液の循環	19. ヒトの血液とリンパ液の循環を説明できる。
		5週	肝臓・腎臓の働き	20. 肝臓と腎臓の働きを説明できる。尿成分の濃縮率を求めることができる。
		6週	自然免疫と獲得免疫	21. 自然免疫と獲得免疫のしくみを説明できる。
		7週	免疫に関する身近な疾患・医療	22. アレルギーやエイズについて説明できる。予防接種や血清療法の意義を説明できる。
		8週	後期中間試験	23. これまでに学習した内容を説明することができる。
	4thQ	9週	生物の多様性とバイオーム	24. バイオームについて説明できる。
		10週	バイオームの形成過程	25. 森林や草原の植生特徴を説明できる。光環境と光合成の関係を説明できる。
		11週	バイオームとその分布	26. 世界のバイオームと日本のバイオームについて説明できる。
		12週	生態系の成り立ち	27. 生態系の構造と食物連鎖について説明できる。
		13週	生態系内の物質循環	28. 生態系内の炭素と窒素の循環，およびエネルギーの流れを説明できる。
		14週	生態系のバランスと保全	29. 人間活動による生態系への影響について説明できる。
		15週	自然環境の保全	30. 湿地や希少動植物種の保全・保護への取り組みについて説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	0	100